

HEBEL HAUS

デザインスタジオ 幕張 BAY SIDE

【物件概要】

依頼主：旭化成ホームズ株式会社 様
所在地：千葉県千葉市
対応範囲：コンセプト提案
内装デザイン
設計・FFE(造作家具含)
サイン
規模：1フロア
施工面積 約1,000㎡



究極の“使う人目線”から創る

社内でバズるデザインスタジオの作り方

DesignArc Case Study

いつもデザインアークのメールマガジンをご覧いただき、ありがとうございます。

今回の施工事例では、ご提案から内装工事まで、オールデザインアークで作上げた事例をご紹介します。

[当物件の詳しい施工例はこちら](#)

現場最前線!

プレイヤーが語る、“使う人目線”の空間づくりQ&A

今年の3月末にリニューアルオープンを迎えた、旭化成ホームズ様の新しいショールーム『HEBEL HAUS デザインスタジオ幕張 BAY SIDE』。

住空間を考えるためのあらゆる材料が一ヶ所に集められ、足を運ぶお客様にもご満足いただいているこのショールームが、今、旭化成ホームズ様の社内においても人気スポットになりつつあります。

この、いわゆる『**社内でバズる**』ほどに親しまれる空間が完成した要因は一体どこにあるのでしょうか。現場の最前線で指揮を取ったプレイヤー陣※[末尾参照](#)に、話を聞いてみました。



Q1. 今回の物件について、当社にご依頼頂いた経緯を教えてください。

A1. 始まりは、当社建材事業部からの屋外階段のご提案がきっかけでした。

当社は10年前に旭化成ホームズ様には建材商品をPRさせて頂いて、建材事業部の担当が定期的に営業訪問していました。当時、旭化成ホームズ様のご担当者様には大変よくして頂いており、毎回ご訪問するのが楽しみな程度だったと聞いています。

月日は流れ、当時のご担当者様は部署も役職も変わり、当社と仕事のやり取りをされる立場からも外れて、勤務地も今回のショールームがある幕張に異動されていました。

そんな中、2021年4月末頃、旭化成ホームズ様のショールーム改装のお話が立ち上がった際、その方は当社を覚えてくださっていて、当時の建材事業部の担当者に、「デザインアークで内装を提案して欲しい」というご依頼をいただきました。

当社は大きく分けて、インテリア・建材・レンタル・スペースソリューションという4つの事業を包括的に行っており、それらも含めてご案内していたからこそ、事業部を越えた当社の総合力でご依頼からご提案に繋がられた好事例だったと思います。

[建材事業部紹介ページはこちら](#)



Q2. 施設名が「デザインスタジオ」ということですが、ショールームの機能面で、こだわった点があれば教えてください。

A2. 沢山ありますが、ここで全てを決められるショールームである事です。

住まいから理想の暮らしを考えるときに、決めなければならないことはたくさんありますが、世の中はまだポストコロナの真っ只中で、いまだに外出しづらい状態が続いています。

しかしそんな中だからこそ、住まいづくりに妥協はできません。

各所に点在するメーカーのショールームを行き来しなくても、外壁の種類からカーテンの生地まで、このショールーム一ヶ所で全てを決められる。

大切なお客様が、安心かつ安全に、心ゆくまで住まいをデザインできる空間になっています。



Q3. 当社がご提案したプランの中で、特に気に入っていただけた部分を教えてください。

A3. 最も良い反応がいただけたのは、コンセプト【「比類なき壁」の覗き見】です。

旭化成ホームズ様が誇るヘーベルハウスの象徴と言えば、なんといっても最強の外壁「比類なき壁」。この物件はインテリアの提案を主な目的としたデザインセンターでありながら、ヘーベルハウスの外壁をイメージできるような仕掛けにこだわりました。

スチールフレームにメッシュメタルとデザインフィルムガラスをはめ込んだオーダーメイドの特製パネルを、ヘーベルハウスの外壁に見立てて各ブースに配置。
※右写真参照

『比類なき壁』のパネルを通して住空間を見る、または感じる事で、自分たちの住まう家そのものにも思いを馳せながら、より豊かな暮らしをデザインする。

そんなロマン溢れるデザインセンターを目指しました。



Q4. ご提案から工事・お引渡しまでを通して、反省点などがあれば教えてください。

A4. 大変お恥ずかしい話ではありますが、当社のデザイン提案が進むにつれて、いつの間にか、デザインありきのプランになってしまっていました。

上記のデザインコンセプトを気に入って頂いて始まった当社のご提案ですが、詳細を詰めていく過程でより良い物を作ろうとするあまり、当社が良いと思った「デザインありき」のご提案、言ってしまうと、独りよがりのデザインになってしまっていました。

一旦はそのご提案が通って工事が始まったのですが、工程の半分ほど進んだところで、「やはりこのデザインはHEBEL HAUSらしい物ではない。もう一度、最初のコンセプトに立ち返って欲しい。」とご指摘を頂きました。

恥ずかしながら、そこで我に返った私たちは、再度、実際にこのショールームを使われる皆様にお時間をいただいて、何度もご意見を伺いました。

「デザインありき」だったプランを「**使う人ありき**」に。

「デザイナー目線」だったご提案を「**使う人目線**」に。

工事を進めながらも、皆様と毎日のように現場で意見交換をさせて頂いて、その中で次々と生まれていく新たなアイデアを、全て汲み取って現場に反映させていきました。

紆余曲折はありましたが、毎日徹底的に意見交換が行われる現場の雰囲気は最高に良く、最終的にはお互いに心から納得できるショールームが完成し、完成イメージのずれ違いなども一切起こりませんでした。

実際に施設を使う**クライアントの皆様と共に創る**からこそ、「**徹底的な使う人目線**」。良い空間を創るのなら、決して独りよがりになってはならないと、再確認した物件でした。



Q5. 最後に、この物件に携わるに当たって、当社として最もこだわったポイントを教えてください。

A5. 最もこだわったポイントは、「オールデザインアークで創ること」です。

オールデザインアークで創る。

これは、この空間で使われている全ての物を当社が提案・製作し、手配・管理・施工まで行うという事です。

目を引くファサードからビスの1本まで。

品質はもちろん、それらの施工方法1つ1つさえも当社で一括管理しているからこそ、私たちは自信を持って、お客様に最高の空間を提供できるのだと考えています。

デザインアーク担当者紹介

営業担当：伊藤 彰康

設計・企画：城本 康広・阿部 有美

工事担当：鎌田 陽介・増田 翔太・西本 恭輔

[当物件の詳しい施工例はこちら](#)

[弊社のその他実績はこちら](#)

デザインアークでは、ハウジングからオフィス・商業・ホテル空間等のインテリアプロデュース・納品等を行っております。

下記HPでも施工事例をご紹介しますので、是非チェックしてください。

これからも様々な情報を発信して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

DesignArc

Daiwa House Group®